

資料 2-3 添付

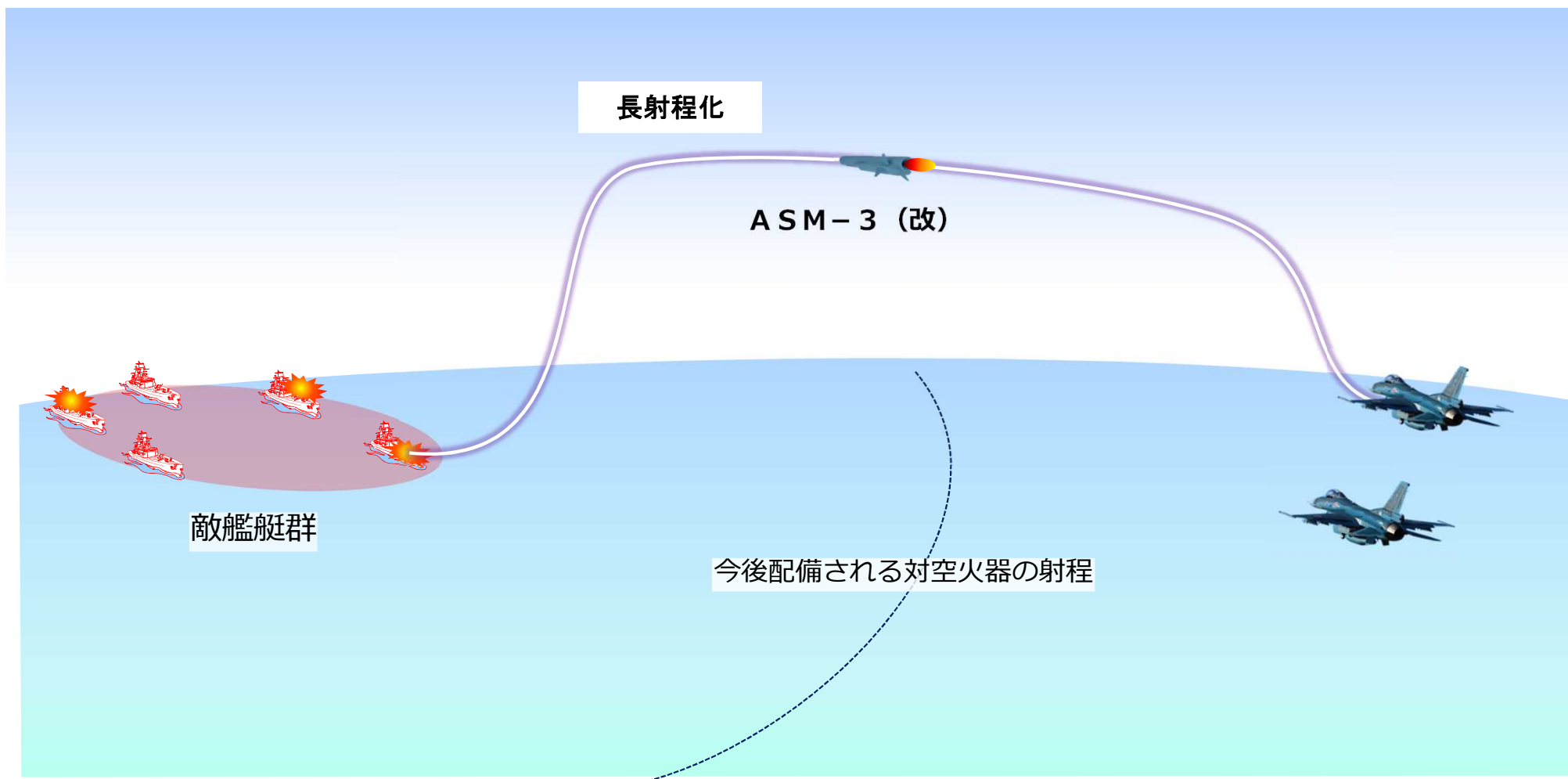
研究開発局宇宙開発利用課
革新的将来宇宙輸送システム実
現に向けたロードマップ検討会
(第2回) R2.12.2

A S M - 3 (改) について

令和二年十二月
防衛省

ASM-3 (改) とは

- 敵戦闘艦艇等に対し脅威圏外から有効に攻撃するため、超音速飛しょうにより高い残存性を有するASM-3の射程延伸を図ったASM-3 (改)を開発する。



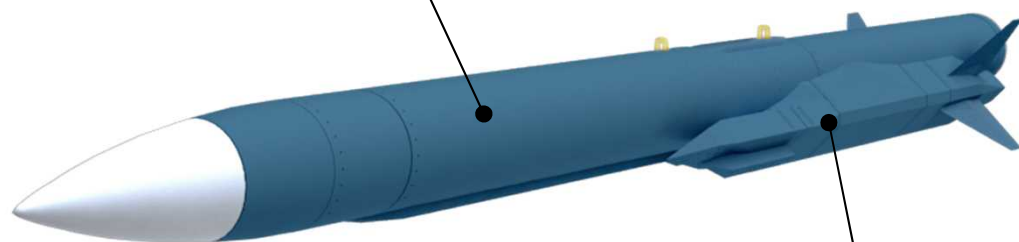
ASM-3 (改) とは、敵戦闘艦船等に対し脅威圏外から有効に攻撃するための空対艦誘導弾である。

ASM-3 (改) の達成すべき目標

- ✓ ASM-3 (改) の達成すべき目標は「長射程化技術の確立」である。
- ✓ 搭載母機の運用性を維持するとともに、開発期間、経費を縮減するため弾体規模を変更せず、射程延伸に必要な機体の軽量化等を行うことで長射程化技術を確立する。

AM (Additive Manufacturing)※による軽量化

材料変更、一体成型、軽量化構造等の適用



インテグラルロケット・ラムジェット・エンジン (IRR) の搭載

西洋諸国で唯一、我が国のみ保有する
小型軽量のIRR技術の維持・発展に寄与

※ 積層造形（付加製造ともいう）のこと。金属粉や樹脂等をレーザーで溶融させる等の手段により、部品形状に積層していく3Dプリンティング技法である。

開発の理由と諸外国との技術比較

- ✓ 諸外国が有する類似の装備品の一覧を示す。要求されるミサイルの飛しょう速度および取得可能時期から、諸外国における装備品に代替案はない。

名称	ASM-3 (改)	CVS401 PERSEUS	BrahMos	JSM	AGM-158C LRASM	HF-III
イメージ図						
国名	日本	英仏	ロシア・インド	ノルウェー	米	台湾
飛しょう距離		300km級	約290km	約300km ～約500km	約400km ～約900km	約200km
全長×胴径	約6.0m×0.35m	約5.0m×不明	約8.4m×0.7m	約4.0m×0.48m	約4.2m×0.6m	約6.1×0.46m
質量		約800kg	約2500kg	約416kg	約1000kg	約1500kg
推進方式	ラムジェット	ラムジェット	ラムジェット	ターボジェット	ターボファン	ラムジェット
装備化	2025年度 (計画)	2030年予定 (研究中)	2020年以降	2023年度以降	2018年(B-1B)	不明
備考	F-2	—	—	F-35	F-18、F-15(改修)	—